

## トピックス

### 【製造業】

景気が良くなっている実感が全くない。10万円以上の工事は稟議を通し相見積りを取る企業が増えていて受注量が減っている

石油関連の値上りにより、材料及び諸経費の値上り

受注の減少

来年以降の受注減(業界全体の閉塞感)

受注単価の低下により、買方市場と一般的に低迷のために受注側の競争激化が出そう

### 【建設業】

得意先である生産工場全体的には受注が増加している様子だが、設備投資しているのは一部の業種のみ

材料・外注に係る資金が多いため利益には繋がらない。個人の資産を殆んど会社に貸出し事業をやっている状態が続いている

たまたま公共工事を受注することが出来たので昨年と比べると売上・採算が好転しているが、建設業全体としてはまだまだ不況と思う

ガソリン、材料価格の高騰

### 【卸・小売業】

アルミサッシ(窓)を現場納入する業務において、棟数確保受注のため1部長距離物件のケースでは輸送トラックのガソリン代が負担となっている

輸入代金不足、積極的経営ができない

景気の後退、全てにおける格差拡大

一般的に不景気の故か

材料費の上昇が急激で対応できない、今後も小麦価格の上昇が見込まれ全てを価格に反映させることは難しく、収益の低下は避けられない。魅力的な商品の開発が必要

時代変化が早すぎる

一般中小企業は個人給与ベースが上がらず、又税改正により個人(家庭)は更に圧迫感から個人消費が上向かず、企業に至ってはガソリン等石油関連製品の値上り、更に関連しない第3次産業にも影響を与えかねず、先行きとしては暗い影を落とす。今必要なのは個人消費の伸長であり、減税や企業の研究開発など景気拡大策の道も考える。前提として税金の無駄(公団・公務員の不当な手当や給与)をなくす

年金額減少(お客様が不安を感じ、買い控えあり)、経済の格差

値上げ感、各種社会保障費等の上昇でお店の維持が難しい時代になってきた、生活に余裕がなく病気にもなれない。労働者派遣法、企業に有利な法律を個人・中小企業に向けなければ

### 【卸・小売業】

大手仕入先の価格と在庫調整に伴う小売業者へのしわよせ大

業種が一部の消費者に限られて来ているので、将来の向上が見込めない

一時的な現象なのかもわからないが、若干客数の増加傾向を感じる。昨年と今年では2割強アップ、同業店の閉店の影響も

一時景気感は良かったが、この時期になって悪い感触になっている

全体的に消費の低迷、小売ではインターネットによる消費者の購入がひびいている部分の一つに考えられる

### 【飲食・サービス業】

景気の悪化

仕事はあるが、人手が不足している

年々売上高の減少

景気感の向上を期待する

石油関係価格の上昇

自動車の整備業より撤退が目立つ